福井県衛生環境研究センター活動報告　概要

発表演題名	福井県における微小粒子状物質（PM2.5）の挙動
学会名	福井大学地域環境研究センター研究発表会（日本海地域の自然と環境）
発表者名	泉　宏導
開催場所	福井大学アカデミーホール
開催日時	平成２６年１２月５日（金）
発表内容	福井県では、健康被害の原因となることが懸念され、県民の関心も高いPM2.5について、福井県内の濃度の実態を把握し、今後の政策や対策の基礎資料となる知見を得るため、調査を行っている。 平成25年度のPM2.5日平均濃度は、通年測定した県内すべての局において環境基準非達成となった。 PM2.5濃度の季節変動については、平成22～24年度の3年間では、高濃度事象は冬から春にかけて多く見られたが、25年度は夏に高濃度が多く出現している。なお、これは全国的な傾向である。 県内各地の日平均濃度変動パターンは類似しており、またその相関係数も0.93～0.98と高く、PM2.5は広域性が強い大気汚染物質であると考えられる。 平成26年2月26日には、福井県で初の注意喚起となり日平均濃度が70μg/m³を超えた。これは、高気圧の動きに合わせ北東アジアからの越境汚染の影響が原因の可能性が高い。 環境基準を超える高濃度の事例では、全国的に値が高くなっており、その要因として黄砂や煙霧を含め越境汚染による広域汚染が影響している可能性が示唆された。